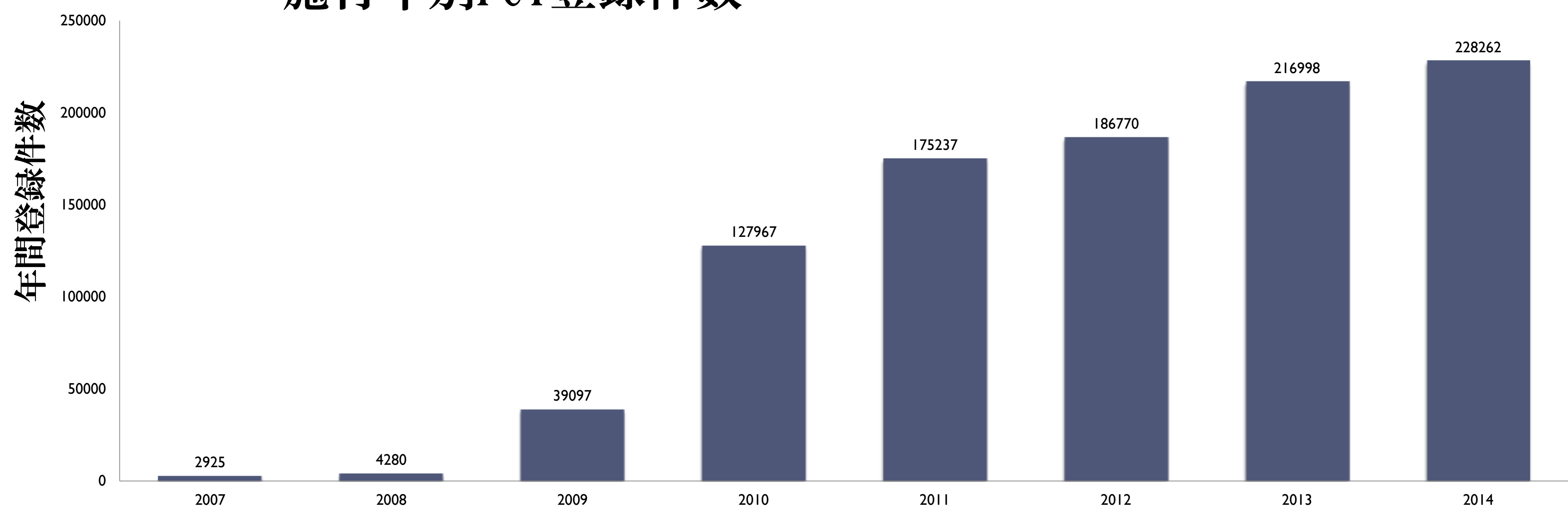


J-PCIレジストリー 2014 集計結果

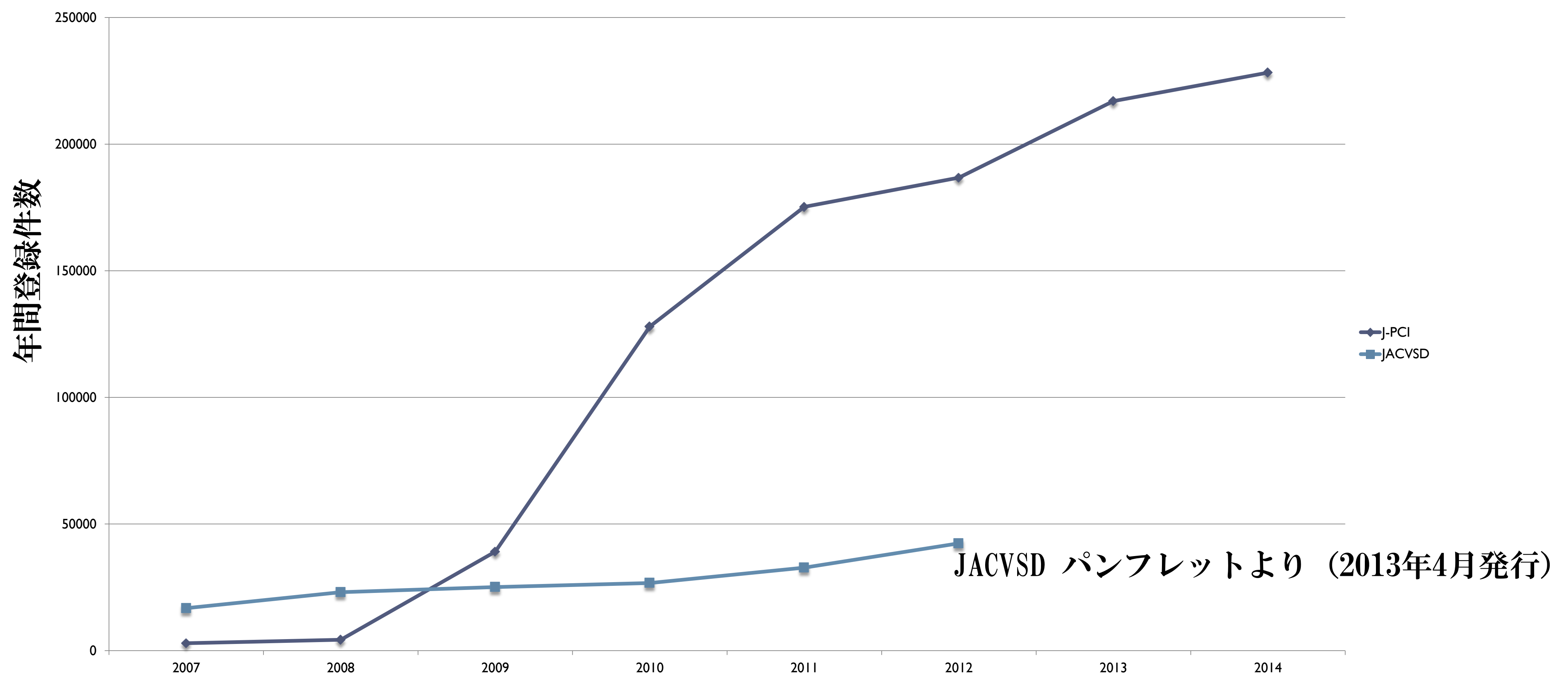
2014/1/1-12/31

755施設より217,211例
(施行件数 22万8千件)

施行年別PCI登録件数



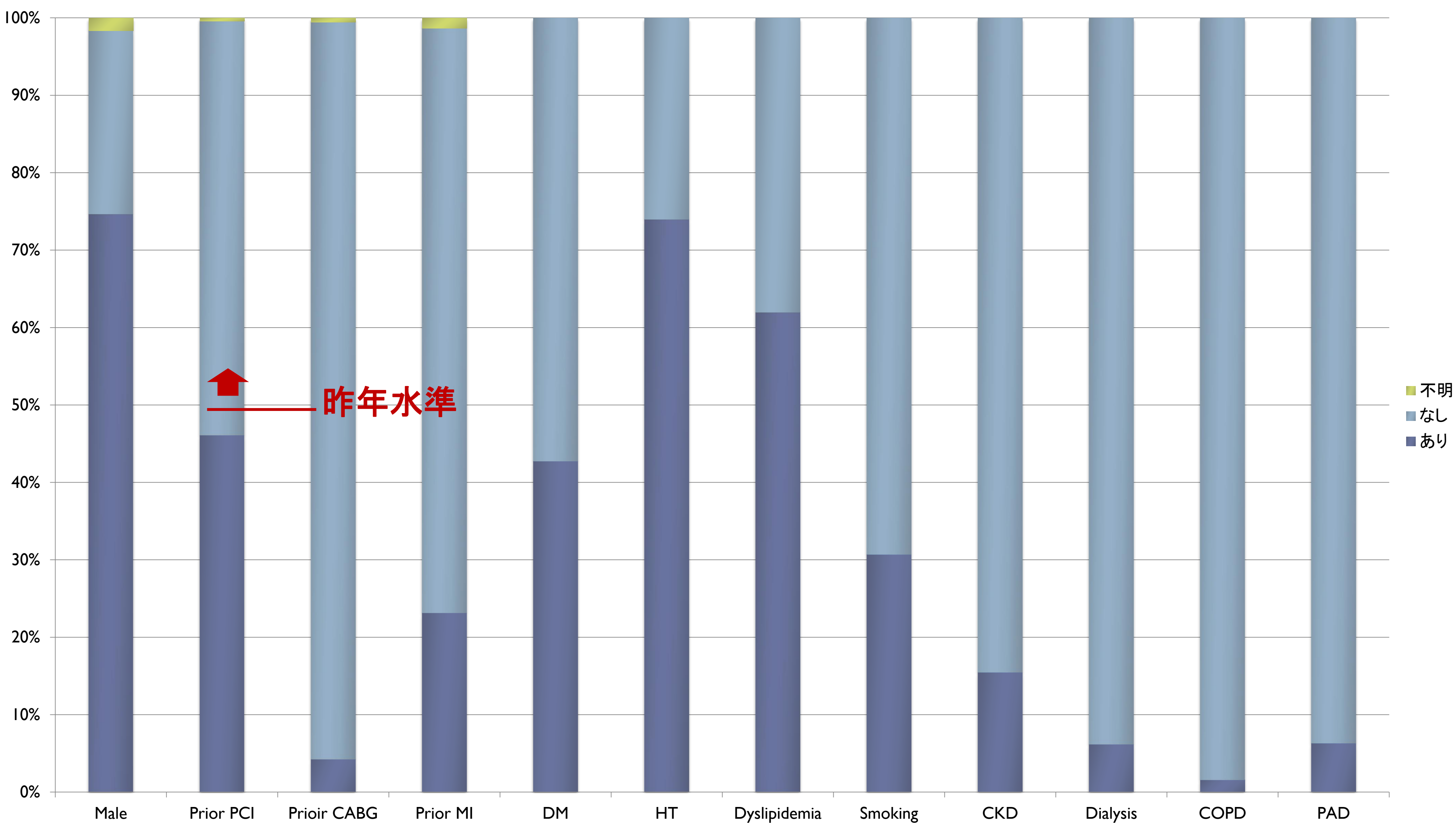
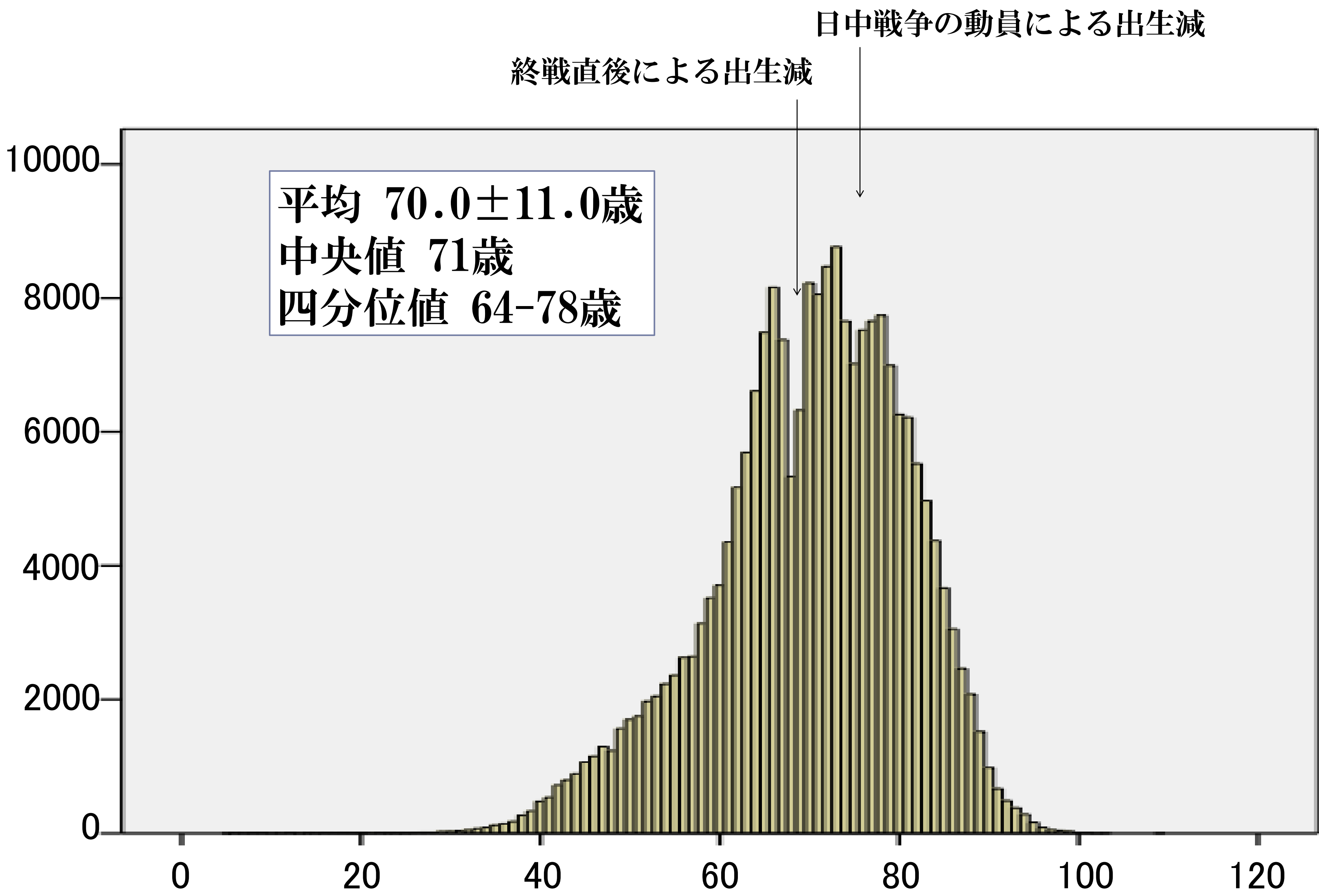
JACVSD（バイパス手術データ）との比較



レジストリー学術小委員会 および 専門認定制度審議会レジストリー小委員会 内
実務担当 Working Group

猪原拓（解析担当）、飯田修、白井伸一、香坂俊、藤井謙司、天野哲也

患者背景に関する集計

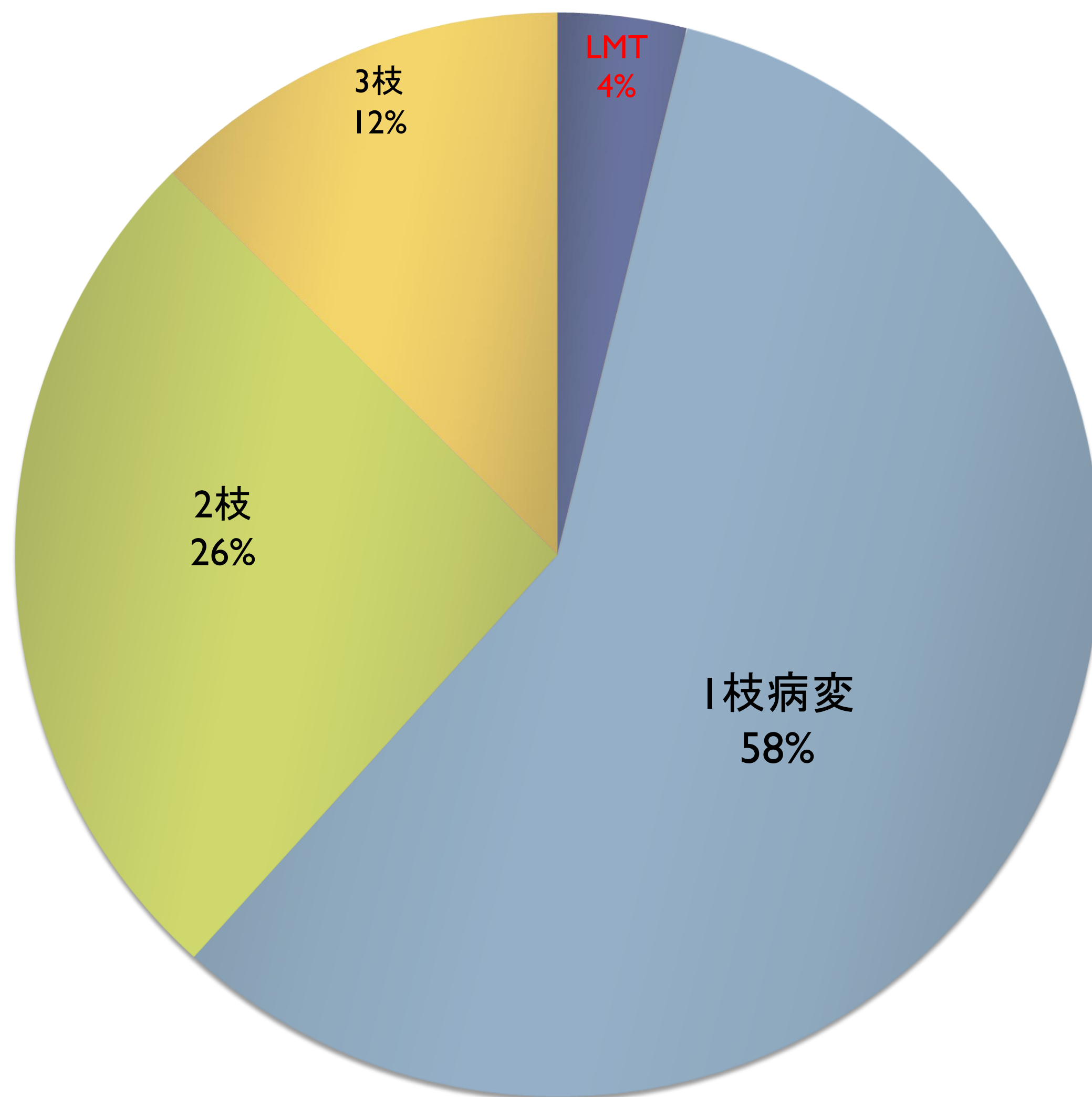


平均年齢に関してはここ数年大きな変動は認められていない。患者背景に関しても同様であるが、唯一 Prior PCI、即ち「PCI の既往のある PCI」が飛躍的に増えている(30% 後半から 40% 半ば; **グラフ内着色部**)。PCI の complexity (複雑さ) の増大に伴うリスクを配慮したものか(例. Staged 手技の増加)、あるいは過去に PCI を行っている症例に対する PCI の閾値が下がっているものと考えられるが、今後検証が必要と考えられる。

(文責 香坂)

入院時病変枝数

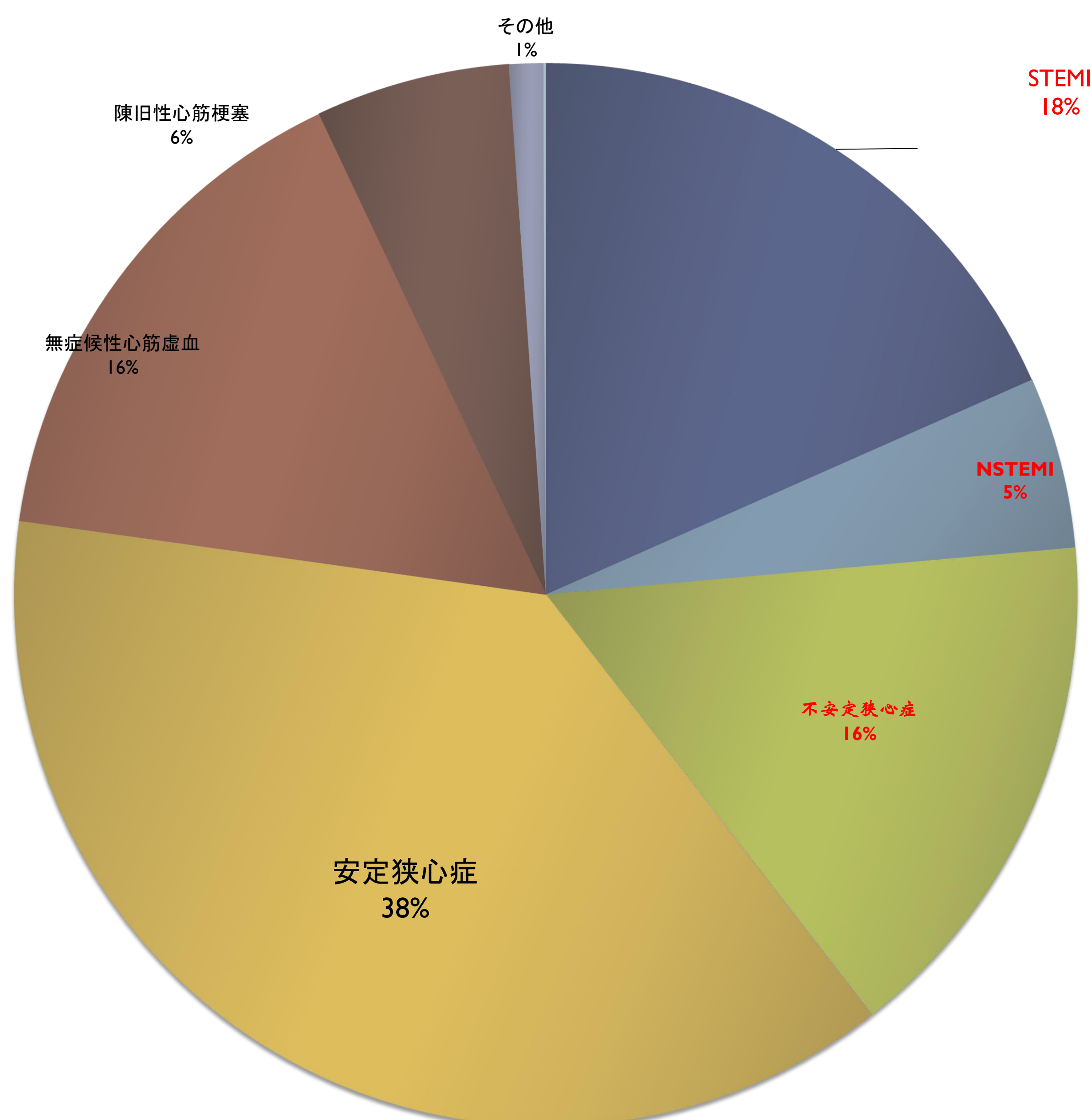
N=217,



昨年のデータと比較し、±1%以内の変動に留まっており、ここ数年の範囲で見ても大きな変動はみられない。

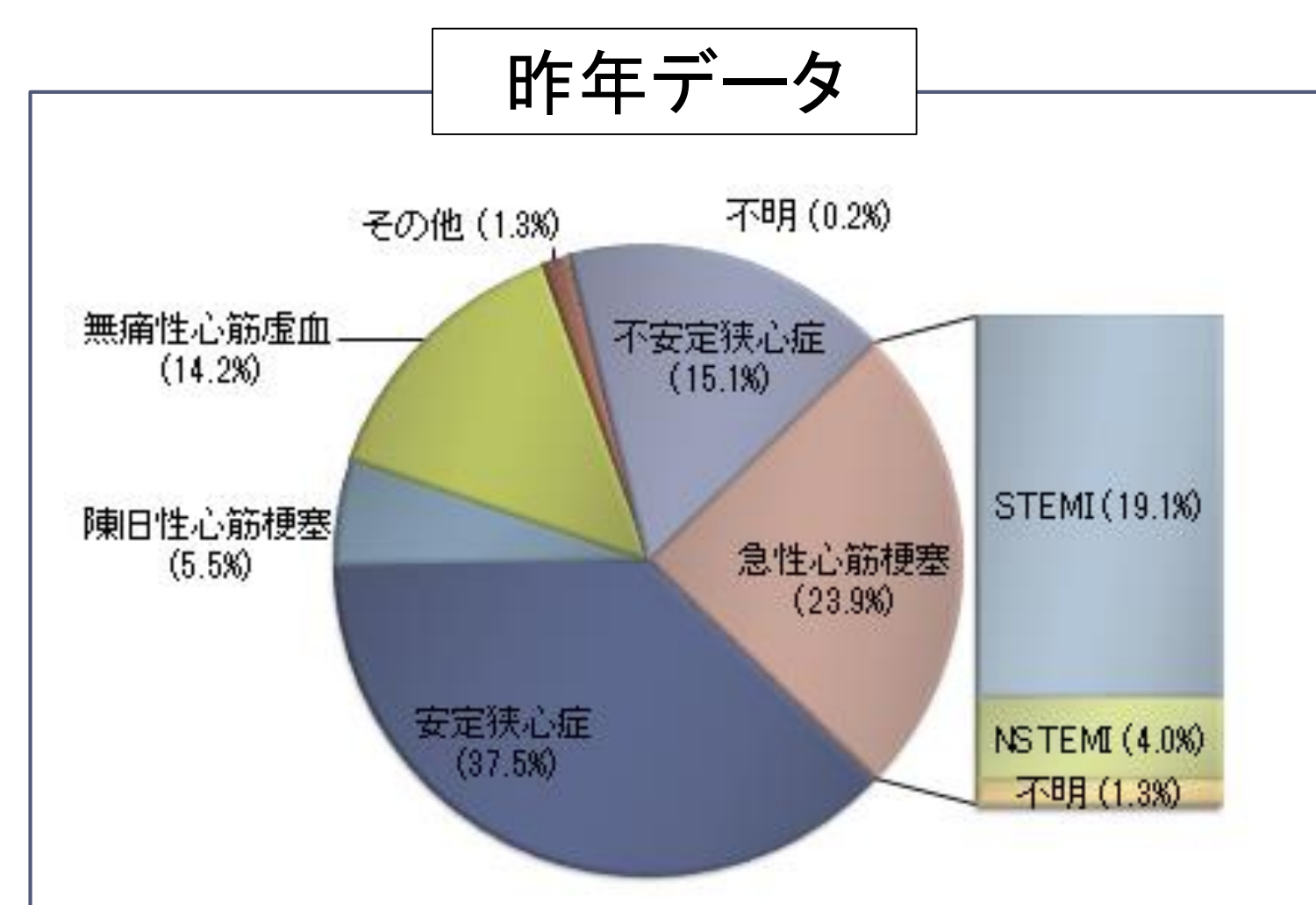
ガイドライン上でもその是非に関する議論が行われている
LMT 症例の割合(4%)については、今後注意深く動向を見守っていく必要があるかと思われる。

入院時診断名

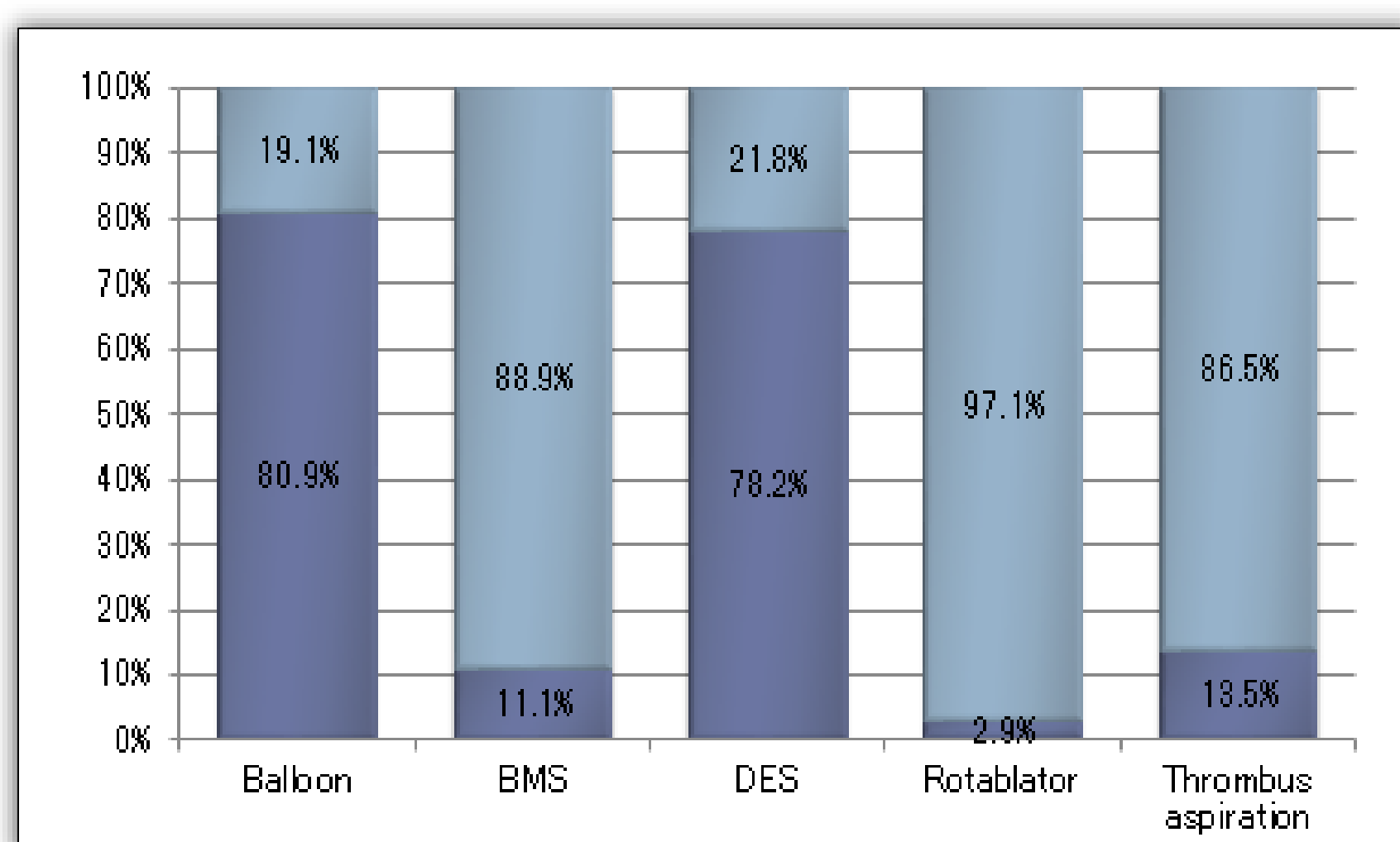
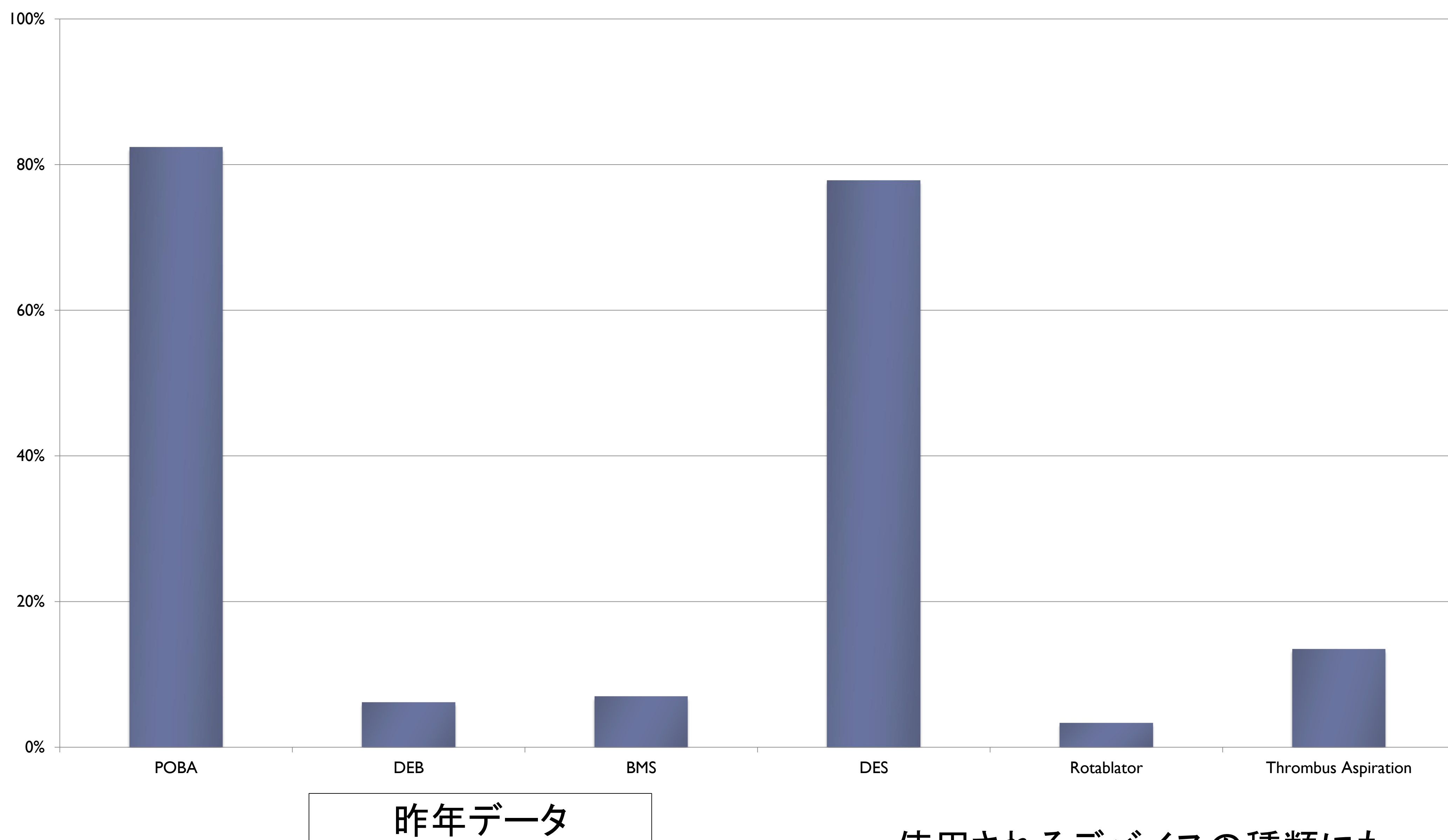


入院診断名についても、昨年のデータと比較しそれほどおおきな変動は認めていない。

欧米のデータと比較すると ACS 等急性期症例が 10% 程度少なく、その分無症候性あるいは陳旧性心筋梗塞等の症例の割合が多くなっておりこれは継続的なトレンドとしてみられていくものと思われる。



使用デバイス割合



使用されるデバイスの種類にも大きな変動は認められていないが、本年より Drug Eluting Balloon の登録が始まっている。使用割合は未だ10%以下であるが、今後増えていくものと推測され、その適切な使用の確立に向け検証を続ける予定である。

撓骨動脈アプローチの割合 (%)

最後に撓骨動脈をアクセスサイトとする PCI の割合を診断名別に記す。我が国では比較的広く行われている Radial Intervention であるが、ACS 症例については安定例よりも 2/3 程度の割合に留まっている。

